

Ⅷ章 中学校における少林寺拳法授業

1. 保健体育 武道（少林寺拳法） 単元指導計画（8時間）

(1) 単元名

少林寺拳法（領域：武道）

(2) 単元（題材）観

①少林寺拳法について

少林寺拳法は昭和22（1947）年、創始者・宗道臣によって自信と勇気と行動力と慈悲心をもった社会で役立つ人を育てる「人づくりの道」として香川県において創始された日本の武道である。自分の心と体を養いながら、他者と助け合い、ともに幸せに生きることを説く「教え」と、自身の成長を実感し、相手とともに上達を楽しむ「技法」、そしてその教えと技法を遊離させないための「教育システム」が一体となっている。人間は、大きな可能性を秘めている。少林寺拳法は自己の可能性を信じ、物心ともに平和で豊かな社会を築くために行動できる人を育てることを目指している。

②教育基本法が示す教育の目的との関連

少林寺拳法の創始以来の目的は、「人づくりによる国づくり」である。平和で豊かな国を築くためには、自信と勇気と行動力と慈悲心をもった人を一人でも多く育てることが必要である。教育基本法による教育の目的は、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」である。少林寺拳法を単元（題材）とすることは、この教育の目的を実現するために有効である。

③学習指導要領が示す道徳教育との関連

平成27（2015）年3月一部改訂の学習指導要領第1章総則の第1には、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。」とある。また、第2章各教科・保健体育には、「第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること。」とある。少林寺拳法には、

相手と直接的に攻防し、教え合いながら技能を高めるといった特徴がある。また、互いに相手を尊重し合うための礼法や作法の指導、克己の心を表す礼儀を守るといった考え方の指導、人間の生き方・在り方を学ぶ少林寺拳法の教えの指導は、道徳科で扱う内容と深く関連している。少林寺拳法は、学校で行う道徳教育の目標を達成するためにも効果的な題材と考えられる。

④新学習指導要領が示す三つの柱との関連

平成29（2017）年3月31日の中学校学習指導要領の改訂によって、学習評価が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理され、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視することが求められている。

少林寺拳法は、教育システムとしてペアワーク（組手主体）で課題解決を図るといった基本的な考え方を特徴としており、その他、多くのキーワード（特徴）においても主体的・対話的な学びや活動に効果的な題材と考えられる。キーワード（特徴）を単元指導計画や学習指導案でも触れることで、新学習指導要領の教育内容の主な改善事項として重視される「伝統や文化に関する教育」として、我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学ぶことになり、教育の目標を実現することにもつながる。

(3) 単元目標

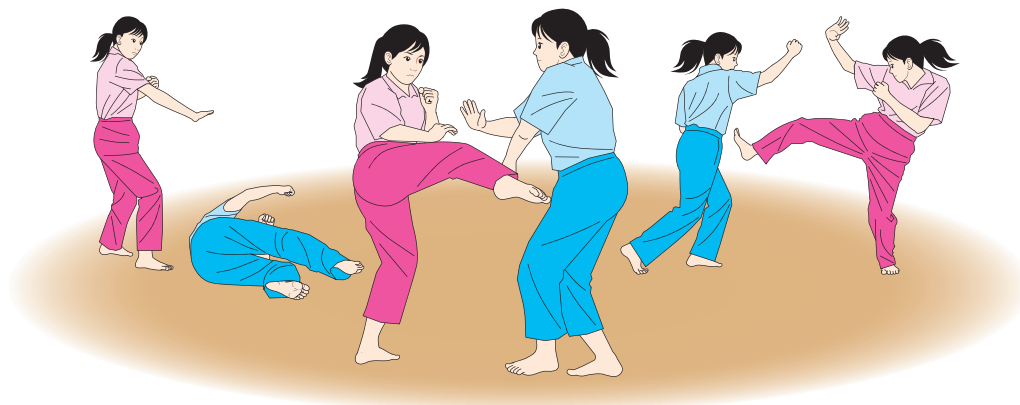
①仲間とともに学び、上達する楽しさや喜びを味わうとともに、基本となる技を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。

②礼法・作法と少林寺拳法の特徴を学び、伝統的な行動の仕方と考え方を理解し、日常生活に生かす方法を考え、人間力を高める。

③ICT機器を活用し、仲間とともに課題を見つけたら、解決方法を工夫したりして、学びに向かう力を高める。

(4) 武道（少林寺拳法）の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】 少林寺拳法の特徴や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>【技能】 相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて突く、蹴る、受ける、抜く、投げるなどの簡易な攻防をすることができる。</p>	<p>攻防などにおいて自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>少林寺拳法の練習に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどができること、練習中の自他の健康・安全に気を配っていたりしている。</p>



(5) 単元指導計画 (8時間)

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価 (評価の方法)
			知	技	思	主	
一	1 ・ 2	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④龍王拳第一系の動きを号令で練習する。 ⑤音楽のリズムに合わせて龍王拳第一系の練習をする。 ⑥講話「あなたは大切なものを守ることができるか(武の本質の応用)」を聞く。 ⑦振り返り。 ⑧次回予告。	○			○	・龍王拳第一系の八つの動きをキーワードで答える。(Gフォームで小テスト【知識】) ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。(Gフォームで小テスト【主体的：学習の調整力】)
二	3 ・ 4	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④講話「武道を学ぶのはなぜ(自己共楽・組手主体の応用)」を聞く。 ⑤音楽のリズムに合わせて龍王拳第一系の練習をする。 ⑥龍王拳第一系攻者の動きを号令で練習する。 ⑦龍王拳第一系相対を号令で練習する。 ⑧振り返り。 ⑨次回予告。			○	○	・結手立、合掌礼の方法をポイントごとに記入する。(Gフォームで小テスト【主体的：伝統的な行動の仕方を守ろうとする。】) ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。(Gフォームで小テスト【思考・判断・表現 主体的：学習の調整力】)
三	5 ・ 6	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④音楽のリズムに合わせて龍王拳第一系の練習をする。 ⑤技能評価シートで評価のポイントを確認する。 ⑥龍王拳第一系相対演武の練習をする。演武撮影・保存、自己の演武動画と示範演武動画を見比べ、課題発見・解決・練習の工夫をグループワークで行う。 ⑦振り返り。 ⑧次回予告。	○			○	・龍王拳第一系の技能評価のポイントをキーワードで答える。(Gフォームで小テスト【知識】) ・課題を見つけ、解決に向けてどんな工夫をしたかを記入する。(Gフォームで小テスト【思考・判断・表現 主体的】)

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
四	7・8	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④音楽のリズムに合わせて龍王拳第一系の練習をする。 ⑤龍王拳第一系相対演武の練習をする。演武撮影・保存、自己の演武動画と示範演武動画を見比べ、課題発見・解決・練習の工夫をグループワークで行う。 ⑥龍王拳第一系の演武撮影・保存・提出。（グループワーク） ⑦振り返り。 ⑧次回予告。			○	○	・課題を見つけ、解決に向けてどんな工夫をしたか記入する。（Gフォームで小テスト【思考・判断・表現 主体的】） ・提出された演武動画で礼法・作法の仕方を評価【主体的】 ・提出された演武動画で技能評価（技能評価シート）【技能】

(6) 指導のポイント

少林寺拳法を題材として、令和の日本型学校教育の2大ポイントである「ICT活用」と「協働の場面」を意図的に取り入れ、生徒が仲間との活動の中で主体的に学習に取り組みつつ、体力の向上や知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力を高めることを目指して、下記のとおり指導の方法を工夫する。

①指導と評価の一体化

ゲーグルクラスルームを活用し、単元目標、本時目標を事前に示し、「何をどのように学ぶのか」「何ができるようになれば、目標達成なのか」を明確にし、生徒と指導者が共有することで、指導内容＝評価の関係が成立し、指導と評価が一体化できる。また、指導者が行う学習評価の妥当性が高くなり、生徒が納得できる評価となる。

② ICT 機器を活用した協働学習を用いて主体的で深い学びにつなげる

基本となる技や演武の示範動画を各生徒のPC端末に配付（ゲーグルスライド）し、生徒がいつでも確認できるようにする。PC端末に自分の演武動画を保存し、示範動画と比べて課題を発見したり、課題解決の練習方法を考えたりできるようにする。ペアワーク・グループワークでは、課題

発見・課題解決に向けた工夫など考え、自分の意見を伝えたり、他者の意見を取り入れたりして、協働学習の中で言語活動を充実させ、生徒の主体的で深い学びにつながる場面をつくる。これらは、思考力・判断力・表現力を高める効果もある。

③振り返り

目標の達成に向けて、それぞれの生徒が、粘り強く学習に取り組んだか、学習内容と自己の課題を調整しながら学習に取り組んだかを振り返り（ゲーグルフォーム）、学びに向かう力を高める。各生徒の振り返りは、ゲーグルフォームで回収し「観点別評価：主体的に学習に取り組む態度」の参考資料とする。

④挨拶を大切にする

少林寺拳法では、相手を見ながらの合掌礼を用いる。生徒が、互いに正しい挨拶をしているかを確認することができる。また、正しく挨拶をする教師の姿勢が生徒の模範となる。「態度は心の現れ＝礼」を武道の授業で学び、人間力を高める。保健体育の授業から学習規律を確立することは、規律ある学校生活・日常生活の確立につながる。

2. 単元指導計画（4時間）

学習活動では、問い立てや技能のポイントについて、まず一人で考えたことを言語化させ、次いで対人的技能を行うペアそしてグループで、気づいた点について話し合う協働的な学びを通じて、最適解を探るよう工夫する。

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
一	1	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④自分と相手との最適な距離を考える。【1人⇒ペア⇒グループ⇒シェア】 ⑤開足中段構・左中段構。 ⑥最適解をまとめる。 ⑦八方目の練習。 ⑧号令練習・相対練習。 ⑨振り返り。 ⑩講話「自己確立」を聞く。	○		○		・自分の体を最速で動かすにはどうすればよいかという問い立てに対して、考えたことを記入する。【思考・判断・表現】 ・礼法の技能評価のポイントを理解して号令をかける。【知識】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【主体的：学習の調整力】
二	2	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④つま先・拳を最速で動かす方法を考える。【1人⇒ペア⇒グループ⇒シェア】 ⑤最適解をまとめる。 ⑥少林寺拳法ではどのように動くのかを考える。（運歩法の練習） ⑦上段突・中段蹴の練習。 ・技のポイントを確認。 ・確認したポイントを実践し、最適解をまとめる ⑧講話「拳禅一如」を聞く。 ⑨振り返り。 ⑩次回予告。			○		・自分の体を最速で動かすにはどうすればよいかという問い立てに対して、考えたことを記入する。【思考・判断・表現】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【主体的：学習の調整力】

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
三	3	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④構えと手刀打ちの練習。 ・ポイントを確認する。 ・一人⇒ペア⇒グループ⇒シェア ⑤攻者と守者を決めて行う。 ⑥上受突の練習ポイントを確認する。 ⑦お互いの技を発表する。 ⑧最適解をまとめる。 ⑨講話「力愛不二」を聞く。 ⑩振り返り。 ⑪次回予告。	○	○		○	・結手立、合掌礼の方法をポイントごとに記入する。【主体的】 ・上受突の技能評価のポイントを示す。【知識】 ・攻防のポイントを意識して演武を行う。【技能】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【主体的：学習の調整力】
四	4	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④小手抜の練習。 ⑤裏拳打ちのポイントをまとめる。 ⑥下受のポイントをまとめる。 ⑦攻防の技のポイントを確認する。 ⑧ポイントを確認して実践し最適解をまとめる。 ⑨示範を見てポイントを確認する。 ⑩お互いの技を発表する。気づいた点を話し合う。 ⑪講話「自他共楽」を聞く。	○	○	○	○	・小手抜の技術評価のポイントを示す。【知識】 ・攻防のポイントを示せる。【知識】 ・課題を見つけ、解決に向けてどんな工夫をしたか記入する。【思考・判断・表現 主体的】 ・攻防のポイントを意識して演武を行う。【技能】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【主体的：学習の調整力】

3. 単元指導計画（2時間）

2時間の中で何を教えるか、内容を精選する。礼法・基本動作・技を通じて少林寺拳法の特徴を理解し、武道の楽しさを体感するとともに、武道の精神が日常生活にも生かせるようにする。多くは教えず、生徒の達成感が得られるよう工夫する。

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
一	1	①単元目標・本時目標確認。 ・少林寺拳法について。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ・個人→二人組で結手・合掌令・着座・安座を練習。 ④基本（突き・蹴り）の練習。 ・号令に合わせての練習。 ⑤受け（内受け）の練習。 ・号令に合わせての練習。 ⑥内受突の練習。 ・二人組での練習。 ⑦講話「武道の意義（争いを止める）」を聞く。 ⑧振り返り。 ⑨次回予告。	○				・少林寺拳法について理解できているか発問に答える。【知識】 ・ポイントを理解して練習できているか。【技能】 ・協力して練習できているか。【主体的】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【思考・判断・表現】
二	2	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法・基本動作の確認。 ④抜き技の練習。 ・切抜（内）、小手抜 二人組→グループ ⑤講話「組手主体（協調性の大切さ）」を聞く。 ⑥振り返り。	○	○	○	○	・前時の内容が理解できているか発問に答える。【知識・技能】 ・ポイントを理解して練習できているか。【思考・判断・表現】 ・協力して練習できているか。【主体的に取り組む態度】 ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。【思考・判断・表現】

